

論壇

アフリカと本質違わず

発展途上国の貧困をどのように撲滅するのかが重要な分野である。大学の研究でも重要な分野である。大学の経済学教育でも、低開発国経済とか経済発展論などは主要な科目として多くの大学で講義が提供されている。国を貧困から救い、人々を豊かにするためには、どのような援助が必要であるのか。この問題について、学問的な研究が多く提示されているだけでなく、世界銀行や国連などの国際機関を通じて支援が続けられている。残念ながら、現実には理想とはか

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

日本の貧困の連鎖断つには

け離れた状況だ。アフリカなどでは、深刻な貧困の罠に陥っている国が少なくない。貧しいので栄養が取れない。教育も十分に受けられない。だから病気で死ぬ子供も多い。産業も発展しない。治安も悪い。だから経済は成長せず、貧困が続くことになる。こうした悪循環が続くのだ。

先進国や国際機関は多くの支援

を続けているが、状況はなかなか改善しない。なぜうまくいかないのか。そうした問題意識から、最近貧しい人たちの行動パターンをもっとしっかりと分析する必要があり、指摘をする人が増え

ている。人間が健康を維持するのに必要な栄養を取るためには、1日1ドル程度の食費が必要になる。残念ながらそれだけの所得を稼げない人が途上国には多くいる。そこで支援として、1ドル程度の所得をあげたらどうなるだろうか。1日1ドル程度の支援をもらうと、父親がそれを酒やたばこなどの嗜好品の購入に回して、家族の食費に使うお金はかえって減らしてしまうという。栄養を取ってもらおうとする支援が、栄養状態をさらに悪くする結果になってしまう。人々を貧困から救い出すのは簡単なことではないようだ。

こうした話を聞くと、私たちは

つい遠くのアフリカやインドのこととして、つまり遠い国の話として考えてしまう。しかし、こうした貧困の連鎖は日本でも深刻な問題として起きている。全国でもっとも子供の貧困が深刻な沖縄の人に聞いた話は、アフリカの話と本質は変わらないようである。貧困な子供を地域や行政が支援しようとしても、そのお金を親がとってしまふことがしばしば見られるという。子供と同居している親は必ずしも子供のために必要な行動をとるとは限らないのだ。

メカニズム深く考察を

親が貧困な家の子供は教育を受

けられない。高校を途中でやめる子供も少なくない。仕事で忙しい親が遅くまで帰宅しない家の子供は、居場所がなく街をぶらつくことになる。不良グループに入る子供も多い。男女の未成年がそうした場で親しくなり、未成年で子供ができることもある。こうして貧困の連鎖が続くのだ。

日本で貧困の連鎖をこれ以上に悪化させないためには、貧困のメカニズムや貧しい人の行動原理についてもっと深い考察が必要だろう。アフリカの貧しい子供を救うためにはお金を与えればよいのではないのと同じように、日本での貧困の連鎖を断ち切るためには、ただお金をかけて支援を増やすだけでは足りないはずだ。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。